

レジリエンス・ワークショップ

河北新報報道部 古関良行

津波への警告

防災の日特集

絵図が語る明治三陸津波



広田村 現陸前高市広田では、捜索のため漁網を用いたところ、50人以上の遺体が見つかった。あまりの重さに引き上げることができなかったという

地獄の史実直視して



三陸沿岸に1896 治三陸津波は、国内史上（明治29年6月15日午後）最悪の津波として災害史上8時すぎ、巨大津波が襲に刻まれていた。いかにいった。最大波高は、地震は三陸沖の海底で大船渡市の38・2m、死 起きた。マニチユド者約2万000人、明（M）は8・5に達した

門前村（現久慈市）の海岸で、遺体の身元を確認する人々。衣服が激流で引き取られている上、損傷も激しく、作業は困難を極めた

が、最大波高は3.7メートルと小さく、沿岸部も津波で被災地でも注目される、を警戒する人は少なかった。光を当てた。それが被害が大きくなったとされる。当時の津波を現代に伝える点の絵図がある。当時、東京・神田にあった出版社「東陽堂」が発行した雑誌「風俗画報」が、明治三陸津波の直後に同誌の記者が津波各地を歩き、被害状況を取材した。その後も、古本屋などで集めてきた。明治三陸津波の直後に同誌の記者が津波各地を歩き、被害状況を取材した。その後も、古本屋などで集めてきた。明治三陸津波の直後に同誌の記者が津波各地を歩き、被害状況を取材した。その後も、古本屋などで集めてきた。

【注】絵図はいずれも、明治三陸津波を特集した「風俗画報」の原本の複写。説明文はリアス・アーク美術館での特別展に合わせて、同誌の記事を現代の表現に置き換えたものを引用、加筆した。



津波の激流のみ込まれ、引き裂かれる家族。その日は旧暦5月5日の端午の節句。中央左には、かんとや（こ）のほしが描かれている

唐桑村（現気仙沼市唐桑町）の惨状。倒壊した家屋からは無数の遺体が見つかった。辺りには悪臭が立ちこめたといわれ、鼻をつまみながら作業する人の姿も描かれている

津波防災を絵図で啓発

リアスアーク美術館 山内宏泰さんに聞く
1896 明治29年、2006年に特別展した一番ショックだったのは、小中学校からの団体見がわすか1件しかなかったこと。子どもでも津波防災の重要性を、とどけた。聞いてきたリアス・アーク美術館（気仙沼市）主任学芸員の山内宏泰さんに、取り組みの手応えなどを聞いた。

風化食い止め 怖さ伝えたい

「激流のみ込まれた家族が散り散りになる瞬間や、海岸に打ち上げられた遺体を方々さがしているの心細い感じが、反応はもう三つ目を覆いたくなる内容も少なくありません。『すべては、この三陸は見てくれるを思っている。08年、明治三陸津波を題材にした絵図を現代に伝える点の絵図がある。』



やまね ひろゆき 1971年、石巻市生まれ。宮城教育大卒。94年からリアス・アーク美術館に学芸員として勤務。現在は美術館学芸員、美術教育。

材にした小説「砂の城」を出版した。

「絵図が駄目なら小説で人々の関心を引き付けられないかと挑戦した。津波の専門家ではない者として、被災の歴史を埋もれさせてはいけない。『むすぶ』という味が悪く、などと言った。日本、一番悲惨な津波を経験した地域として、伝え残さなければいけない」と語る。

「教訓を語り継ぐ一方で、津波の現実を描く声もあります。『今はしくじりやかな身近な浜が、地獄と化した史実を語り、防災に本気がなくても必要がある。高い確率で発生が予想される宮城県沖地震を含め、津波は必ず来る。津波の怖さを一人一人が肝に銘じ、備えにつなげてほしい。』

役立ったのか 仮設住宅でアンケート

- 「役立った」は3割
- 「あまり」「まったく」役立たずは7割
- 「広く、浅く」から「狭く、深く」
→ 地域ごとに教訓を掘り下げ、地域の実情に応じた備えを

毎月11日掲載

防災・減災のページ



地域住民の自主的な防災対策の必要性について協議を特化した足立西行政地区の住民 6月17日、村町町立西立地区公民館

巡回ワークショップ @宮城県村田町・足立西地区

東北地方の山間部には、人口が少なく、高齢化が進んでいる地域が多くあります。また、山間部には、災害発生時の避難経路が限られていることや、通信設備が整っていないなどの課題があります。このような地域では、住民の自主的な防災対策の推進が非常に重要です。今回の巡回ワークショップでは、専門家の講話や、住民同士の意見交換を通じて、地域に合った防災対策の検討を行いました。

山間部「自立型」共助へ

山間部は、人口が少なく、高齢化が進んでいる地域が多くあります。また、山間部には、災害発生時の避難経路が限られていることや、通信設備が整っていないなどの課題があります。このような地域では、住民の自主的な防災対策の推進が非常に重要です。今回の巡回ワークショップでは、専門家の講話や、住民同士の意見交換を通じて、地域に合った防災対策の検討を行いました。

むすび塾



赤線は通新道。産業技術総合研究所 南東北圏データベース2009年7月23日版 (http://ripod07.baselab.tytlab/activefault/index.htmlより)

藤沼ダム(須賀川市)と村田ダム(宮城県村田町)の比較

	藤沼ダム	村田ダム
ダム形式	アースダム	アースダム
竣工年	1937年	1972年
完成年	1940年	1979年
堤高	18.5m	36.7m
貯水容量	150万4000立方m	166万立方m
流域面積	8,274平方km	8,537平方km
最大洪水流量	205m ³ /s	175m ³ /s

※日本ダム協会(ダム)集覧より

■専門家から

東北大学工学部研究科教授(水工学) 風間 聡氏

山間部は、人口が少なく、高齢化が進んでいる地域が多くあります。また、山間部には、災害発生時の避難経路が限られていることや、通信設備が整っていないなどの課題があります。このような地域では、住民の自主的な防災対策の推進が非常に重要です。今回の巡回ワークショップでは、専門家の講話や、住民同士の意見交換を通じて、地域に合った防災対策の検討を行いました。



地震が起きた時に自主防災組織が地域で行うこと



自衛隊での経験基に助言
山形県危機管理アドバイザー 高野昭二さん(58)
2010年まで自衛隊員として全国各地の災害現場で活動した経験を活かし、山形県と各自治体の危機管理や防災対策に対する助言を行っています。例えば情報収集、自衛隊では「情

報主要素」と言いますが、緊急時は、その時点で優先的に知るべきことが何かをはっきりさせる必要があります。集約した情報は役に立たない、訓練などのために伝える必要があります。東北大学防災をきっかけに地域の防災意識は高まりました。

携帯基地局の改修進める
KDDI東北総支社長 野野繁一さん(56)
東北大学大震災では、携帯電話が重要な社会インフラとなっていました。そのため改修されました。震災を教訓にして、停電になっても基地局のバッテリーが24時間持つような改修工事を東北の約

まずは安否連絡網整備

温泉旅館従業員、二階 敏雄さん(74) 地域の防災について、地域になる会合だった。今後は住民と相談して、東洋の「3・11」を念頭に自主防災組織をつくりたい。行政には頼らず、地域は自分たちで守ろうと意識を定めた。まずは、住民の自主防災のシステムを考へようと思う。地域周辺には避難所が走っている。避難場所も設定する方向で話し合っている。

継続的な話し合い大切

無職・調子悪さん(72) 震災後は自炊に食料を確保したが、少しずつ廃れてしまっている。防災の意識は時とともに弱まってしまっている。むすび塾を通じて、1人で考えよう、仲間たちと相談しようという意識を醸成したい。家族にも、災害時に安否連絡をどうするかなど、あらかじめ確認したい。

できるところから準備

正さん(67) これまで防災について、住民同士が話し合う機会がなかった。若い人を中心に地域外に働きに出ている人が多いため、平日の避難所が不足する不安がある。東日本大震災では大きな被害はなかったが、今後、どこまでどんな災害が起きるか分からない。町に求めることは求め、地域で準備できることは準備したい。

孤立前提に自主防災組織を

中野町の防災意識を高める。自主防災組織の重要性を伝える。木村拓郎氏

220回をはじめ全国で進めています。災害時に被害を拡大しないために、まずはシステムを支える。社会の安全が確保されれば、防災意識が高まります。防災意識が高まれば、災害時の対応もスムーズになります。自主防災組織の重要性を伝える。木村拓郎氏

■情報をお寄せください

「いのちと地域を守る」をテーマに、読者とともに考え、共有するページです。取材や記事、取り上げてほしい情報、防災に関する情報をお寄せください。巡回ワークショップ「むすび塾」の開催を希望する町内会などの団体も

事務局です。当方は〒980-8060山形県青葉区五橋1の2の25、西北亜細亜通信 山形「防災・減災のページ」係。ファックス022(211)1256、電子メールアドレス ktbousa@epo.kahoku.co.jp

公開画面(写真)イメージ

Firefox

河北新報 震災アーカイブ 検索・サム...

河北新報ニュース「コルネット」 | 3.11「絆」手を携え、前に！ | 投稿サイト「動画の辻」

河北新報 震災アーカイブ

写真検索 | 記事検索 | 地図検索

フリーワードで探す: フリーワード検索 | 地域で探す: 住所

時期で探す: 開始時期 ~ 終了時期

表示コンテンツ: 河北新報提供写真のみ

検索

並び替え: 日付昇順 | 日付降順 | 表示件数: 30 | サムネイル表示 | リスト表示

検索結果: 21件 << < 1 2 > >>

						
JR仙台駅前 2011年3月11日 撮影	午後6時5分、気仙沼市 気仙沼湾に漏れた重油 に引火し、湾内全体... 2011年3月11日 撮影	南三陸町志津川に津波 が押し寄せる瞬間4 2011年3月11日 撮影	午後4時ごろ、岩沼市 仙台空港仙台空港に押し 寄せる大津波 2011年3月11日 撮影	釜石市、がれきに埋も れた街から犠牲者を運 ぶ自衛隊 2011年3月12日 撮影	釜石市、大津波から一 夜明けた市街地では、 家を失った市民らが た... 2011年3月12日 撮影	気仙沼市鹿折、自宅2 階の物干し場から救助 を求める女性 2011年3月12日 撮影
						
宮城県気仙沼市車両が 津波に襲われ脱線した JR気仙沼線 2011年3月12日 撮影	釜石市 倒壊した建物 を捜索する岩手県警の警 察官 2011年3月12日 撮影	午前2時46分、釜石市 内の避難所 2011年3月12日 撮影	午前6時40分ごろ、名 取市閉上、津波で流さ れた車やがれきが散... 2011年3月12日 撮影	午前7時36分、東松島 市大曲海水に浸かり大 型漁船が打ち上げら... 2011年3月12日 撮影	名取市増田、名取市役 所には家族や親類、友 人などの安否を尋ね る... 2011年3月13日 撮影	生活用品を求めて大手 スーパー前に並ぶ市民 2011年3月14日 撮影

震災アーカイブ 5つのスタンス

- ①報道機関として 「1000年に一度」取材し後世に伝承
- ②地元紙として 市民の記録を収集・保存・整理・閲覧
(膨大な写真・映像・証言が残る初の大災害)
- ③被災当事者として 「次に備える」防災減災教育に寄与
- ④インフラとして 全世界からアクセスできるデータベースの構築
(検索システム、メタデータの付与と共有)
- ⑤地域再生の一助として コミュニティ再生に役立てる視点
(「被災地域のための利活用」を念頭に置いた仕組みづくり)

河北新報震災アーカイブの特徴



見るアーカイブ

- ・ 新聞記事と報道写真、市民撮影写真を関連付けて見るサイト
- ・ 地図とタイムスライダー…地域と時系列の整理で見るサイト
- ・ 記事と写真でたどる震災の記憶（被災・歩み・祈り…）



有償システムと無償のアーカイブの切り分け

- ・ 新聞記事見出し1万数千件を無償提供⇒内容は河北DB（有償）で
- ・ 過去記事（昭和三陸津波、チリ地震津波、宮城県沖地震など）デジタル化
- ・ 市民提供写真1万点以上を（権利関係整理の上で）保存・検索・閲覧



地域と連携した幅広いコンテンツ収集活動

- ・ 新聞未掲載の写真数万点の保存・整理と一部公開
- ・ 市民やボランティア団体が撮影した写真の収集・投稿・保存・閲覧
- ・ 復興に至る「今」を記録し続ける⇒次世代に向け育ち続けるサイト